

平成 18 年 11 月 22 日 記者会見 質疑応答（大阪）

発表内容：平成 18 年度中間決算について

日 時：平成 18 年 11 月 22 日（水）17 時 15 分～17 時 45 分

場 所：関西金融記者倶楽部

発 表 者：りそなホールディングス（HD）水田社長、財務部 大橋 GL

【質疑応答】

Q．関西地域でのりそなグループの貸出金の推移は？

A．18 年 9 月中間期の大阪府内での貸出金シェアは、前年同期比、グループ全体では若干増えていると思います。グループ内では、りそな銀行が横ばいで、近畿大阪銀行が増加しています。りそな銀行の場合は 3 年前に合併し、まだ店舗の統廃合をしておりますので、その影響が若干出ているのかなという感じです。近畿大阪銀行の場合は、合併したのが 2000 年で 6 年前ということもあり、店舗の統廃合が 2 年前に完了しています。店舗統廃合による貸出金の減少という状況にはなく、逆に店舗や人員が落ち着いたことにより、貸出金残高は安定して推移しています。りそな銀行も、今年 9 月から中小企業向け貸出金の回復の兆しが出てきていますから、今後大阪府内での貸出金のシェアは上昇していくと予想しています。

Q．りそな銀行の近畿 2 府 4 県の貸出金残高は？

A．6 兆 5,600 億円程度で、年間で約 1,900 億円増加しています。

Q．今年度の収益予想が弱含みであるが、その要因は？

A．昨年は与信費用の戻入れによる利益増加の要因などによるものです。

Q．今回の水田社長の人事異動の狙いは何か？

A．近畿大阪銀行での桔梗社長の体制が安定してきたということが一点と、先般発表させていただいた健全化計画の中で、近畿大阪銀行はりそな銀行との合併ではなくて、独自に営業力を強化していくことの結論を出しましたので、私がいつまでも近畿大阪銀行の非常勤取締役でいることの意味はないであろうということです。（りそな HD 前社長の）川田がもともとりそな銀行の副会長でしたから、それと同じ体制にしたということです。元の体制に戻そうということです。

Q．何故、このタイミングでの人事異動なのか？

A．健全化計画の発表も終了し、本日、中間決算も発表させていただいていますので、12 月 1 日付けの異動となっただけで、他に意味はございません。

Q．大阪での他行の貸出金シェアの推移をどのように考えているか？

A．シェアの奪い合いはいつも起こっていることだと思います。また、どこの金融機関でも、（競争）相手が合併した時はいつもチャンスだと考えていると思います。

Q．上期は住宅ローンの債権流動化を実施したのか？

A . 上期は実施していません。

Q . リそな銀行での、(細谷)会長、(野村)社長と(水田)副会長との役割分担は？

A . 現在でも、(リそなHD社長として)リそな銀行の経営にもかなり参加していますので特に役割の変更はないと思っています。グループの収益の7割を計上しているリそな銀行に戦力を集中するということの表れですし、また、もともと細谷、川田、野村の体制だったのが、細谷、水田、野村の体制になっただけです。

Q . リそなHD社長の水田さんが近畿大阪銀行の非常勤取締役を退任することは、リそなHDが近畿大阪銀行と距離感を持つことにはならないのか？

A . そうは思っていません。近畿大阪銀行の非常勤取締役であると同時に、リそなHD社長ですので、当然、近畿大阪銀行のいろいろな計数も把握していますし、報告も適宜来ています。近畿大阪銀行に対する私の関与度がそう大きく変わっていくとは思っていません。

Q . 近畿大阪銀行の業務純益が減少した理由は？

A . 業務粗利益の段階で前期比22億円のマイナスとなっています。資金量で健闘しているものの、利ザヤが減少しておりまして国内資金利益がマイナス1億円、また、債券ポートフォリオの見直しによる債券関係損益がマイナス22億円となっています。この減少分を投信や保険販売から得られる役務取引等利益(前期比9億円のプラス)でカバーしています。経費が若干増加しており、業務純益段階で前期比25億円のマイナスとなっています。債券関係損益の影響で業務純益はマイナスとなっています。

Q . 近畿大阪銀行はどのように変わったと感じているか？

A . 一番変わったのは不良債権の減少です。ピーク時には14%程度であった不良債権比率が、3%台にまで減少しましたし、また、貸出金残高の大きいお客さまが少なくなりました。つまり、貸出金債権が小口分散化してきたということです。この2点が大きな変化だと思います。桔梗社長は、徹底してお客さまを訪問していますので、今後貸出金残高は増加していくと感じています。

Q . 18年3月期比、中小企業等向け貸出金がリそな銀行では減少し、近畿大阪銀行では増加しているが、これはすみ分けが徹底されてきたということか？

A . そうではありません。リそな銀行も近畿大阪銀行もターゲットしているのは中小企業ですが、規模が違います。リそな銀行は、合併後お客さまの数が減少していましたので、貸出金減少のトレンドがこの9月まで続いていました。リそな銀行では、(中小企業等向け貸出金が)半期で約330億円減少してしまいましたが、注力していないということではありません。また、リそな銀行と近畿大阪銀行の間でお客さまに対して、線引きをしているということはありません。

Q . 政治献金は復活させるのか？

A . 公的資金が注入されている銀行とそうでない銀行の違いはありますし、また、それぞれの銀行の方針もありますが、リそなグループとしては多額の公的資金を完済していませんので、政治献金の検討はしておりません。

以上